

脳血管内治療検討ワーキンググループ開催経過

◆ 第1回（平成27年10月6日）

- ・ワーキンググループにおける当面の論点
- ・東京都脳卒中救急体制の現状と課題
- ・ワーキンググループ開催に至る経緯

◆ 第2回（平成27年12月17日）

- ・脳血管内治療に関するアンケート調査内容について
- ・脳血管内治療に関する他道府県（熊本県・徳島県）及び自発的ネットワークの事例

◆ 第3回（平成28年7月25日）

- ・脳血管内治療に関するアンケート調査結果について
- ・アンケート調査結果をうけた今後の課題の整理

◆ 第4回（平成28年12月12日）

- ・ワーキンググループにおける議論のとりまとめ（案）について

◆ 第5回（平成30年5月15日）

- ・脳血管内治療を含めた転院搬送体制の取組の方向性（案）について
- ・脳血管内治療に関する状況調査（案）について
- ・ICTを活用した情報共有ツール整備支援事業について

脳血管内治療を円滑に行うための転院搬送の検討

都における現状

- 平成30年度に実施した脳血管内治療の状況調査結果では、脳卒中急性期医療機関162施設のうち、83施設が脳血管内治療可能である(83施設のうち 24時間365日可能:61 時間や日によって可能:22)。
- しかし、圏域によっては脳血管内治療可能な医療機関が1つしかないところもある。
- また、脳血管内治療可能な医療機関であっても、医師の不在や脳血管撮影装置が使用できない等の理由により、脳血管内治療適応患者に対応できない場合がある。

脳卒中急性期医療機関が連携し、脳血管内治療を円滑に行うことのできる体制が求められる。



目指すべき方向性

- **脳血管内治療の必要な患者に対し、地域の医療機関が連携し、転院搬送を円滑に行うことのできる体制の充実を図る。**

転院搬送の充実に向けた取組

1. 脳血管内治療を円滑に行うことのできる転院搬送の充実
2. ICT等を活用した転院搬送のための情報共有ツール整備支援の促進

転院搬送の充実に向けた取組

取組1 脳血管内治療を行う際の転院搬送の仕組

① 「医療機関リスト」の作成・共有

- ・ 「脳血管内治療に関する状況調査」の結果から作成した病院ごとの脳血管内治療が可能な時間帯を取りまとめた「医療機関リスト」を脳卒中急性期医療機関A施設で共有する。

② 東京消防庁「病院端末」の活用

- ・ 東京消防庁の「病院端末」に、脳血管内治療の「診察」、「手術」の受入状況を加える。
- ・ 脳血管内治療に対応できないA施設は、病院端末を活用し、搬送先の調整を行う。

➡ 各医療機関の情報を地域で共有するとともに、リアルタイムの受入状況を把握可能とすることで、東京都脳卒中急性期医療機関における転院搬送先の選定を容易にし、地域における、より円滑な転院搬送を可能とする。

取組2 ICT等を活用した転院搬送のための情報共有ツール整備支援

- ### ① 「ICTを活用した情報共有ツール」整備のための補助事業を実施し、東京都脳卒中急性期医療機関におけるツールの導入を促進する。

- ### ② ツールを導入した医療機関間で、患者の転院搬送に際して、迅速に画像等患者情報を共有する。

➡ 事前に患者の医療情報を共有できることで、転送先における治療開始までの時間を短縮することができる。

脳血管内治療実施のための転院搬送フロー図

脳血管内治療適応あり

自施設において、
脳血管内治療が**可能**

自施設において、
脳血管内治療が**不可能**

転送元医療機関担当医が転院搬送先を選定

既存のネットワークにより、
転院搬送先を選定

- ① 「医療機関リスト」を用いて、脳血管内治療実施医療機関を確認。
- ② 「病院端末装置」(後述)の表示を確認し、「(転院搬送用)脳血管内治療」の「手術」の項目が「○」になっている病院の中から、転院搬送先を選定。
- ③ 選定した医療機関に転送元医療機関担当医から電話連絡。

ICT活用情報共有ツールを用いて、
画像等の患者情報を事前に共有

{
・ 東京消防庁の救急車
・ 病院救急車
} による転院搬送。

自施設において、
脳血管内治療実施

転院搬送先において、脳血管内治療実施

東京消防庁 病院端末装置を用いた転院搬送

【病院端末装置】

- 救急医療機関に設置され、診療及び収容態勢の情報を医療機関が入力することで、リアルタイムに情報を表示する。
- 現状、「脳卒中A(t-PA治療への対応状況)」「脳卒中B(その他の脳卒中に対する治療)」の項目ごとに、「診察」「手術」「ベッド男」「ベッド女」をそれぞれ○、×で表示している。
- 本装置は、救急隊が一次搬送(発症現場から救急医療機関への搬送)先の選定の際に用いる端末である。

【脳血管内治療実施のための転院搬送にむけた病院端末装置の改修】

- 現状の表示項目に「(転院用)脳血管内治療」(仮称)の「診察」「手術」の項目を追加する。
- 脳血管内治療を実施する脳卒中急性期医療機関は、他脳卒中急性期医療機関からの転院搬送受入可能状況について○又は×を入力する。
- 転院搬送を行おうとする脳卒中急性期医療機関は、病院端末装置の表示を確認し、対応可能な医療機関に連絡を取り、転院搬送先を選定する。

(注意点)

- 一次搬送の搬送先選定に利用している病院端末装置を利用するため、脳卒中急性期医療機関のみならず、救急隊、他医療機関も情報を参照可能となる。
⇒ 一次搬送先選定の項目と誤認しないよう、表示項目の名称や表示方法に配慮が必要。

【現行の病院端末装置】 診療可否、手術可否、男性ベッド収容可否、女性ベッド収容可否で条件指定検索が可能

地区	病院情報	救急空病床	科目	診	手	男	女	科目	診	手	男	女	更新日時
千代田区	〇〇病院	1	脳卒中A	×	×	○	○	脳卒中B	○	○	○	○	19/04/17/08:34
中央区	△△病院	2	脳卒中A	○	○	○	○	脳卒中B	○	○	○	○	19/04/16/19:47

今後のスケジュール(予定)

(2019年)

- 第6回脳血管内治療検討WG開催
(平成30年度調査結果の共有、転院搬送の仕組(案)の策定 など)
- 脳卒中医療連携協議会開催
(転院搬送の仕組(案)の承認 など)
- 協議会での承認後、東京消防庁において病院端末装置の改修
- 医療機関リストの作成
- 東京都脳卒中急性期医療機関向け説明会開催
- 脳卒中圏域別検討会への周知



2020年1月～ 新搬送体制運用開始